

Euro Indicators

Euro Weekly (1/25~1/29)

発表日：2010年2月1日(月)

～景況感が改善するなかでも、銀行の融資基準の厳格化が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

■ 1/25～1/29に発表された主な経済指標

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
1/25 (月)	(独) 2月GfK消費者信頼感	3.2	3.1	3.4
1/26 (火)	(ユーロ) 11月経常収支(季調値、10億ユーロ)	+0.1	—	▲4.6
	(独) 1月Ifo景況調査(景気)	95.8	95.1	94.6
	(現況)	91.2	91.3	90.4
	(予想)	100.6	99.1	98.9
	(独) 12月輸入物価(前月比)	+0.5%	横ばい	+0.4%
	(前年比)	▲1.0%	▲1.5%	▲5.0%
	(仏) 12月消費者支出(前月比)	+2.1%	+0.6%	+0.1%
	(前年比)	+5.9%	+3.8%	+3.5%
	(英) 10-12月期実質GDP(前期比)	+0.1%	+0.4%	▲0.2%
	(前年比)	▲3.2%	▲3.0%	▲5.1%
1/27 (水)	(独) 1月消費者物価(前月比)	▲0.6%	▲0.3%	+0.8%
	(前年比)	+0.8%	+1.0%	+0.9%
1/28 (木)	(ユーロ) 1月業況判断	▲1.12	▲1.10	▲1.30
	(独) 1月失業率	8.2%	8.2%	8.1%
1/29 (金)	(ユーロ) 12月失業率	10.0%	10.1%	9.9%
	(ユーロ) 1月消費者物価(前年比)	+1.0%	+1.2%	+0.9%
	(ユーロ) 12月M3(前年比)	▲0.2%	▲0.5%	▲0.3%
	(西) 10-12月期失業率	18.83%	18.50%	17.93%
	(英) 1月GfK消費者信頼感	▲17	▲18	▲19
	(英) 1月ネーションワイド住宅価格(前月比)	+1.2%	+0.3%	+0.5%
	(前年比)	+8.6%	+7.3%	+5.9%

(注) コンセンサスはBloomberg調査

■ ユーロ圏：寒波による悪影響が懸念されるが、年明け後も企業活動の回復基調が続く

<ドイツ(1/26)：1月Ifo景況調査>

1月のドイツのIfo企業景況感指数(2000年=100とした指数)は95.8と前月の94.6から一段と改善。現状判断(12月：90.4→1月：91.2)、今後6ヶ月の見通し(98.9→100.6)が何れも前月を上回った。業種別のDIは、小売業(▲12.3→▲12.8)が前月から悪化した一方、製造業(▲9.3→▲6.6)、建設業(▲26.8→▲21.5)、卸売業(▲6.9→▲4.7)が前月から改善。同時に発表されたサービス業の業況判断DIは4.9と前月の5.5から低下したものの、6ヶ月連続で「改善」が「悪化」を上回った。

【評価】 ヘッドラインの景況感指数は10-12月期平均対比で+2.5%。年明け後も製造業活動の回復が続

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

いていることを確認。1/19発表のZEW景況調査の停滞は金融市場の動揺が影響したとみられ、今回のIfoの結果がより実態に近いと考えられる。

<ドイツ (1/27) : 1月消費者物価 (速報値) >

1月の消費者物価 (速報値) は前年比+0.8%と前月の同+0.9%から伸び率が鈍化。

【評価】 前月比では▲0.6%と大幅に下落。燃料費の上昇が続いているものの、前月の高い伸び (同+0.8%) の反動に加え、天候不順の影響もありパッケージ旅行の価格下落などが影響した。

<ドイツ (1/28) : 1月失業率>

1月の失業率は8.2%と過去3ヶ月の8.1%から小幅上昇。08年9月の7.6%を底に上昇に転じたドイツの失業率は、昨年6月の8.3%をピークに上昇に歯止めが掛かってきたが、ここにきて再び悪化。

【評価】 失業率が再び悪化に転じたことで景気回復ペースの鈍化が雇用情勢に悪影響を及ぼしていることが懸念される。但し、同月の失業者増加は歴史的な寒波に見舞われたことで、建設業を中心に季節労働者が大きく減少したことも影響した模様。

<ユーロ圏 (1/29) : 12月マネーサプライ>

12月のユーロ圏のマネーサプライ (M3) は前年比▲0.2%と前月の同▲0.3%からマイナス幅が縮小。また、民間向け融資は同横ばいと前月の同▲0.7%から改善した。

同日発表された1月のユーロ圏の銀行貸出態度調査では、現状の貸出態度DI (過去3ヶ月に貸出基準を「著しく厳格化した」「やや厳格化した」と回答した割合の合計から、「著しく緩和した」「やや緩和した」と回答した割合の合計を引いた計数) は+3と、前回10月調査 (+4) よりも厳格化の割合が低下。今後3ヶ月の貸出態度について尋ねた先行きDIは+3と、前回調査時の0より厳格化の割合が増加。

【評価】 足元で貸出の減少ペースが緩和してきているが、先行きの貸出態度が再び厳格化傾向にあり、貸出の伸びは今後も抑制される見通し。なお、貸出態度DIの計算では、「やや厳格化 (緩和) する」の回答よりも、「著しく厳格化 (緩和) する」の回答に対して、より大きな比重。両者に対して同ウェイトを用いた計算結果も公表されており、それによると現状判断での厳格化姿勢の緩和、先行き判断での一段の厳格化が一層際立つ。すなわち、1月の現状判断は、「やや緩和する」との回答が前回: 2%→今回: 6%に増加しており、同ウェイトを用いた全体の計数は+8→+3に改善。一方、先行き判断では「著しく厳格化する」との回答が0%→2%に増加しており、同ウェイトを用いた全体の計数は▲1→+4に悪化。

<ユーロ圏 (1/29) : 12月失業率>

12月のユーロ圏の失業率は10.0%と前月から0.1%ポイント上昇。08年3月の7.2%をボトムに上昇傾向が続いている。国別には、スペインの19.5%が突出して高く、スロバキアの13.6%、アイルランドの13.3%、ポルトガルの10.4%、フランスの10.0%がこれに続く。

【評価】 前月と比較して上昇した国は、アイルランド (11月: 13.0%→12月: 13.3%)、スペイン

(19.4%→19.5%)、ルクセンブルク(6.1%→6.2%)、マルタ(7.0%→7.2%)、オランダ(3.9%→4.0%)、ポルトガル(10.3%→10.4%)、スロバキア(13.5%→13.6%)と7ヶ国に及ぶ。これまで失業率の上昇が抑制されてきたドイツでも1月の失業率が上昇に転じるなど(前ページの該当箇所を参照)、雇用情勢の悪化が景気回復に及ぼす影響が懸念される。

<ユーロ圏(1/29)：1月消費者物価(速報)>

1月のユーロ圏の消費者物価(速報値)は前年比+1.0%と前月の同+0.9%から伸び率が高まった。

【評価】 速報段階では費目別・地域別の内訳は公表されない。1月の確報値は2月26日に公表予定。

■ 英国：昨年10-12月期は7四半期振りのプラス成長に復帰したが、回復ペースは緩慢

<英国(1/26)：10-12月期GDP(速報)>

10-12月期の英国の実質GDPは前期比+0.1%と7四半期振りのプラス成長。業種別には、農業(同▲0.6%)、公益(同▲3.3%)がマイナスの一方、製造業(同+0.4%)、鉱業(同+1.0%)、卸売・宿泊・飲食(同+0.4%)、政府(同+0.2%)がプラス。輸送・通信、企業向けサービス・金融は同横ばい。

【評価】 7四半期振りのプラス成長となったが、プラス幅は事前予想よりも小幅にとどまった。景気は底打ちしたものの、回復ペースに力強さは見られない。需要項目別の詳細は2月26日の改訂値で公表される。

<英国(1/29)：1月GfK消費者信頼感>

1月のGfK消費者信頼感(金融・経済・購買環境の現状および先行きの判断DIを平均したもの)は▲17と前月の▲19から改善。内訳は、個人金融環境の先行き(12月：+3→1月：+4)、経済環境の現状(▲61→▲57)、経済環境の先行き(▲6→▲2)が改善。個人金融環境の現状(▲14)、購買環境(▲16)は前月から不変。

【評価】 全体の計数が改善したのは昨年9月以来。景気後退の主要因であった金融・住宅市場の混乱が落ち着きを取り戻すなか、先行きの景況感が何れも改善していることはポジティブ要因。

<英国(1/29)：1月ネーションワイド住宅価格>

1月のネーションワイド住宅価格指数は前月比+1.2%と9ヶ月連続で上昇(前月は同+0.5%)。前年比では+8.6%と、前月(同+5.9%)から一段と上昇率が高まった。

【評価】 今次ピーク・ボトムの下落率は▲19.6%(07年10月→09年2月)。1月の上昇により、ボトムからの上昇率は+10.7%に達し、下落分の半分以上を取り戻した。仮に2月の住宅価格指数が前月比で下落しなければ、前年比の伸び率は07年6月以来の2桁台の伸びとなる見込み。

以上